

2026年第5回京都競馬特別レース名解説

<第1日>

○京都ジャンプステークス（J・GⅢ）

本競走は、1999年に創設された障害重賞競走。芝3170mの別定重量戦で行われる。高さ80cm、幅約16mのバンケット障害を使用し、競走馬のみならず、騎手にとっても技量を問われる難度の高い競走となっている。

○木津川特別

木津川（きづがわ）は、京都府南部を流れ、八幡市で淀川に注ぐ一級河川。三重県の青山高原に源を発し、柘植川・服部川・名張川の水を集める。

○貴船ステークス

貴船（きぶね）は、京都市左京区の地名。深山幽谷や貴船川の清流が見られ、祈雨祈晴の神として古くから信仰を集めている貴船神社がある。貴船川の川床は座敷から素足を付けることが出来るほど水面が近く、京料理を楽しむことができる川床料理店が軒を連ねる。

○室町ステークス

室町（むろまち）は、平安京の室町小路に由来する地名。京都市中央部の室町通は、北は北山通から南は久世橋通までを指す。三条通との交差点付近は交通の便がよく、西陣にも近いことから繊維問屋が集中している。今出川通の北側には、「花の御所」と呼ばれた室町幕府が置かれた。

<第2日>

○もちの木賞

もちの木は、モチノキ科の常緑小高木。宮城県、山形県以南琉球列島までと、朝鮮半島南部および中国舟山列島の暖帯に分布し、海岸や山野に多く見られる。

○清水ステークス

清水（きよみず）は、京都市東山区の清水寺を中心とした一帯。清水寺は、778年の開創といわれ、山号は音羽山、宗派は北法相宗。「清水の観音さま」「清水の舞台」「音羽の滝」が有名で、多くの参拝者が訪れる。1994年にはユネスコ世界文化遺産に登録された。また、この地域は清水焼の産地としても有名。

○みやこステークス（GⅢ）

本競走は、京都競馬場のダート1800mで実施されていた『トパーズステークス』を2010年にオープン特別競走から格上げし、競走名を変更して創設された重賞競走。

なお、第1着馬には同年の『チャンピオンズカップ』への優先出走権が与えられる。

みやこ（都）は、その国の中央政府の所在地。日本では長く京都がその地であったため、京都を指すことが多い。

<第3日>

○天橋立ステークス

天橋立（あまのはしだて）は、京都府北部宮津市にある砂嘴でできた砂浜。逆さになって見ると天に架かる橋のように見えることからこの名がついたと言われている。陸奥の「松島」、安芸の「宮島」と並び、日本三景の一つに数えられる。河川から流出した砂や小石などが海流に乗って移動し蓄積され形成された。全長3.6kmで、その両側には約7,000本の松が植えられている。

○アンドロメダステークス（L）

アンドロメダ（Andromeda）は、ペガサス座の北東にある晩秋の代表的な星座。トレミーの48星座のひとつ。名は、ギリシア神話に登場するエチオピア王ケフェウスと王妃カシオペアの娘アンドロメダに由来する。

○デイリー杯2歳ステークス（GⅡ）

本競走は、1966年に創設された重賞競走。創設時は芝1600mだったが、翌年から1400m（1974年～1977年は1200m）に短縮され、1997年から再び1600mとなった。

デイリースポーツは、神戸新聞社より発行されているスポーツ紙。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

<第4日>

○黄菊賞

黄菊（きぎく）は、黄色い花をつけるキクの総称。キクは日本の国花の1つであり、観賞用、切り花用など、その種類は非常に多い。花言葉は「高貴」「高潔」。

○花背特別

花背（はなせ）は、京都市左京区の北部にある地名。鞍馬より花背峠を越えたところにある杉木立に囲まれた静かな地。8月15日の「花背松上げ」は、愛宕神社の献花行事であり、約千本もの松明を焚くことから、火の祭典としても名高い。

○エリザベス女王杯（G I）

本競走は、1970年に3歳牝馬三冠の最終戦として創設された『ビクトリアカップ』を前身とする重賞競走。1975年にエリザベス女王が来日したことを記念して、翌年に現在の競走名に改称された。当初は『ビクトリアカップ』を踏襲し、京都競馬場の芝2400m、負担重量は定量、3歳牝馬限定の混合競走で実施されていた。その後、古馬牝馬の競走体系改善に伴い、1996年に競走条件が3歳以上の牝馬に変更され、牝馬No. 1決定戦としての意味合いを持つようになるとともに、距離も2200mへ短縮された。

○ドンカスターカップ

ドンカスター（Doncaster）は、イギリスのイングランド中北部、サウス・ヨークシャー州の都市。ドーン川下流域に位置し、古くは織物や炭鉱の町として栄えていた。

本競走は、ドンカスター競馬場と京都競馬場が姉妹競馬場となったことを記念して、1989年に創設された競走。1595年から競馬が行われていたとされる同競馬場では、最古のクラシックレースであり、イギリスの三冠競走の一つである『セントレジャーステークス』が実施される。

<第5日>

○秋明菊賞

秋明菊（しゅうめいぎく）は、キンポウゲ科イチリンソウ属の植物の一種。名は、秋頃、菊に似た花を咲かせることに由来する。別名は貴船菊。京都の貴船地方に多く見られ、古くから観賞用として栽培されている。花言葉は「忍耐」「薄れゆく愛」。

○比叡ステークス

比叡（ひえい）は、京都市と滋賀県大津市の境にある比叡山の略称。山頂は京都側の四明ヶ岳と県境の大比叡に分かれる。788年に最澄が入山して根本中堂を建立し、延暦寺の勅号を受けて以降、多くの高僧碩徳を輩出し、日本仏教の母山と仰がれている。現在では、一山寺院50余、末寺3,000寺を誇る天台宗の総本山として有名。

○シトリンステークス

シトリン（Citrine）は、様々な色彩を持つ鉱物グループの総称。名は、フランス語でレモンを意味する「Citron（シトロン）」に由来しているとされる。11月の誕生石として知られ、黄色から黄褐色の明るい色合いが特徴で、日本語で「黄水晶」とも言われる。

＜第6日＞

○花見小路特別

花見小路（はなみこうじ）は、京都市東山区北西部にある通りの呼称。北は三条通りから南は安井北門通りまでの小路のことを言う。祇園歓楽街の中心を貫き、四条通より南側の沿道は石畳で舗装され、「都をどり」の行われる歌舞練場やお茶屋、町家などが立ち並ぶ。

○西陣ステークス

西陣（にしじん）は、京都市上京区の今出川大宮を中心とした地域の総称。北は鞍馬口通、南は一条町、東は新町通、西は千本通に及ぶ。名は、応仁の乱において西軍の山名宗全が陣を置いたことに由来する。特産品として西陣織が有名。

○マイルチャンピオンシップ（G I）

本競走は、1984年に創設された重賞競走。日本における競走体系は長らく長距離路線が重視されていたが、近代競馬においてスタミナとともにスピードも重視されるようになり、短距離路線についても整備が図られた。文字通りマイラーのチャンピオンを決める一戦として、『安田記念』と並び大きな目標となっている。

○醍醐ステークス

醍醐（だいご）は、京都市伏見区の醍醐寺を中心とする地域。874年に理源大師聖宝が霊泉を発見し、その「醍醐味」を味わい、寺号としたことが地名の由来となっている。また、豊臣秀吉が盛大な花見を行った場所としても有名。

＜第7日＞

○梅尾特別

梅尾（とがのお）は、京都市右京区の地名。高尾・槇尾とあわせて三尾と呼ばれ、古くから紅葉の名所として有名。同地にある高山寺は世界遺産に指定されており、鳥獣人物戯画や日本最古の茶園があることで有名。

○東山ステークス

東山（ひがしやま）は、京都市の区名。また同市街東側の山地。一般に北の比叡山から、南の稲荷山までを指し、東山三十六峰と呼ばれる。山麓には銀閣寺・南禅寺・知恩院・八坂神社・清水寺など、京都の代表的な史跡旧跡が集まり、京都観光の中心地となっている。

○ラジオNIKKEI杯京都2歳ステークス（GⅢ）

本競走は、2014年にオープン特別から格上げされた重賞競走。1959年から続く伝統ある競走で、1989年まで芝1400～1600mで実施されていた。その後、1990年に1800mに、2002年には2000mに距離が延伸され、2歳馬の距離適性を測る競走となっている。

ラジオNIKKEIは、日経ラジオ社が運営する短波放送局の愛称。前身となる日本短波放送時から中央競馬実況中継をはじめとする様々な競馬番組を提供している。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。

＜第8日＞

○花園ステークス

花園（はなぞの）は、京都市右京区の地名。名は、清原夏野が別荘のあったこの地に多くの草花を植え、花園と呼ばれたことに由来する。

○オータムリーフステークス

オータムリーフ（Autumn Leaf）は、紅葉を意味する英語。

京都には紅葉の名所が多く、京阪電鉄沿線には「通天紅葉」で有名な東福寺や宇治の三室戸寺、長岡京市の栗生光明寺などがある。

○京阪杯（GⅢ）

本競走は、1956年に創設された『京都特別』を前身とする重賞競走。当初は芝2200mのハンデキャップ戦として実施されていた。1961年に現在の競走名に改称され、その後、幾度かの変更を経て、2006年から3歳以上、1200mの別定重量戦で実施されている。

京阪ホールディングスは、大阪市に本社を置く株式会社。本競走は、同社より寄贈賞を受けて実施されている。